

ゆとり世代の叱り方・教え方Q&A(第4回)

「ふてくされる」「自信過剰」どうすればいい？

2016.07.20

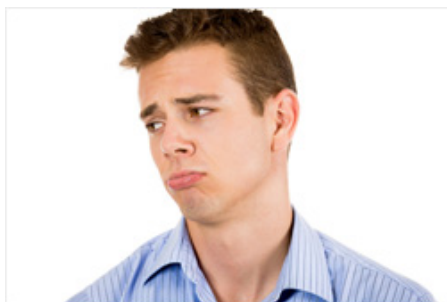
ゆとり世代の叱り方・教え方を具体的なケースで学ぶ連載の第4回。注意したらふてくされたり、自信過剰で不遜な態度を取ったりした場合の対処法です。

Q ほんの少しミスをしただけなのに、まるで「もう立ち直れない」と言わんばかりの落ち込みようです。と思えば「まるで自分は悪くない」と言わんばかりの膨れっ面をしています。いったい何を考えているのでしょうか？

A 反省するのはいいが、すねてはダメだということを理解させましょう。

【対処法のポイント】

ミスをした、叱られたとき、どうしていいかが分からないので、すねたり、ふてくされたりという態度を取ってしまうのがゆとり世代です。感情をコントロールすることが苦手な人が多いようです。



「すみません……」と言ったまま押し黙り、落ち込んだままになってしまいます。挨拶の声が極端に小さくなり、次の仕事が雑になったり、「どうせ自分は……」という気持ちが態度にそのまま出たりしてしまいます。悪い場合は、「ちゃんと教えてもらっていないから」「環境が悪かったから」のように、責任を押し付ける言葉しか出てきません。しまいにはシクシクと泣き出す始末……。 「オイオイ……」と驚くのは上司のほうです。

これはゆとり世代が陥りがちな「他責」の考え方です。そうではなく、反省し、検証・分析し、改善につなげる「自責」にならないといけません、と教えましょう。反省をすることは大切ですが、ゆとり世代は反省の態度を、無口になったり、すねているような態度で表現したりする傾向があります。彼らの考える反省の態度が、上司や周囲が「反省しているな」と感じる態度とズレているのです。

そのとき、「お前は今、すねているように周囲からは見えるぞ。それでは反省しているようには見えないから、ダメだぞ」ということを明確に伝えましょう。ビジネスにおける反省とは「すみませんでした。しっかりと切り替えて、次からはできるようにします」ということです。謝った後は気持ちを切り替え、そういうときだからこそ、挨拶などをきちっとすることが大切です。そして「次はどうしたらうまくいくかを考えて実行しなければならぬよ」ということを教えましょう。

●まとめ

切り替えられなくなっている気持ちを「自責サイクル」に導く。

Q 仕事上の大切な連絡をしているにもかかわらず、メモを取りません。きちんと仕事が進むかどうか、不安でなりません。

A… 続きを読む